



右ページ)「愛宕陣太鼓連響風組」。真剣な眼差し／1、3)迫力満点の演奏を披露したプロ太鼓集団「天邪鬼」／2)「太鼓集団魁」と尺八奏者「岳人山」のコラボレーション。静と動の融合／4)雨の中、演奏に見入る来場者／5)奈良川橋の下では、各団体から暖かい食べ物などが振る舞われた／6)魁は「楽天」と「怒涛」の2曲を披露した／7)毎年長蛇の列を作るジャンボき鍋／8)笑顔あふれるびっくり市出店者／9)ご当地アイドル「ひめキュンフルーツ缶」のライブ。橋の上にも大勢の人が観覧に訪れていた／10)人であふれかえったびっくり市／11)特産品や手作りのものなど、各団体趣向を凝らして市場を盛り上げた

今年で18回目を迎えた「でちこんか2011」は10月15、16の両日、奈良川河川敷で行われました。来場者は延べ約3万人。県内外から訪れた多くの客でにぎわいました。

あいにくの雨の中行われた15日前夜祭。開幕を飾ったのは本町の「太鼓集団魁」。続いて、東京、福島、大阪の邦楽団体が演奏を披露しました。被災地である福島県から参加した「愛宕陣太鼓連響風組」。齋藤通夫会長は、演奏後、福島島の惨状を話し「この元気を福島にも届けてください」と訴えました。観客も真剣なまなざしで応え、会場は一体感に包まれました。



ステージ周辺には愛治活性化集団母愛夢芝美知子会長、YYC(田中正人会長)、企業組合ひろみ川(芝博史代表理事)、鬼北町生活研究協議会(高田ミサ子会長)や鬼北町青年団(谷岡一仁団長)らが飲食店などを出店。前夜祭は熱気冷めやらぬ中、午後9時に幕を閉じました。

快晴となった16日、奈良川河川敷は、開場前から心待ちにする人であつという間に埋め尽くされました。

町内保育所園児たちによる元気いっぱい「きしダンス」で開会した2日目。でちこんか名物の「びっくり市」には地元産品を使った食品店、民

芸品店、愛護班による子ども用遊び場など、約90団体が軒を連ね、先に進めなくなるほどの人でにぎわいました。商工会員らが用意する「ジャンボき鍋」は、2千5百食が振る舞われ、今年も200以上の列を作る人気ぶり。配膳開始から約1時間半で終了しました。「鬼北と言えばきき鍋。これを目的に来ました」と笑顔を見せる町外の来場者たち。

特設ステージでも、ダンスチーム、バンド、ご当地アイドルによるライブなど、多彩なパフォーマンスがあり、「でちこんか」は今年の鬼北一番の盛り上がりになりました。

## みなぎる熱気とあふれる活気

